

市第119号議案(関係部分)の審査、採決

(加納副委員長) 今回のいわゆる不正経理の問題で、所管する3局、特にこの道路局については金額も大きいですし、3カ年の国への返済金額のみならず本市の税金についても、今、牧嶋委員からお話があったように、推定でしょうけれども1,000万円近いということもあります。

きのうから、それぞれの局のほうに細かいデータの中で議論をしていただいても、きのう審査が終わった局では、担当者がいないから答えられませんかとか、それから、答えてもなかなかよくわからない中で、時間ばかり費やして具体的にどうなっていくのかというのが不明確で終わっているということもあります。

きょうは道路局さんのほうには事前に、きちっと答えられる人が御答弁していただけないかということも、正副委員長からお願いもして、ある意味では昨日と比べて担当者がきちっと答えてくれたということもありますが、それでも先ほど来からの御答弁を聞いていても、と思いますという形で、想定問答集で終わっている。鈴木委員からも御指摘があったように、管理職が全くそういうことを理解していない。しかも、昨日もこういう議論があったにもかかわらず、そういったことがしっかりと把握されていない。

もう一つは、コンプライアンスという観点から言えば、横浜市のコンプライアンスというのは疑われるだけでもコンプライアンスという形でもって皆様方は訴えているわけですから、そう考えると、私も所管をする委員の1人として、今回3局がともに、皆さん方の言葉で言うと認識はしていない、意識はしていない、虚偽記載なんかそんなものしていませんと。それはそれで御答弁しているのはわかるのだけれども、でも結果として、公文書であることは事実だということは認めているわけでしょう。それにきちとした記載ができていない、いわゆる偽りの記述が書かれているということはもう事実なわけでしょう。

そうすると、まずそういったことの実態について、きちっと答弁しなければだめですよ、確認をしなければ。その上で、いわゆる今後の再発防止をするということをししないと、モニターで聞いている方、市民の方、それから今後、議事録で読むであろう市民の方、ましてや年末年始を抱えて大変な思いをしている市民からすれば、皆さん方の御答弁は多分納得できないと思うのです。

そこで、もう一度確認させていただきたいのですけれども、いわゆる公文書であることは事実ですかということが1点。それから公文書偽造、虚偽ということは結果としてどうなのですかということ、やはりきちっと御答弁してください。

(川口技監兼道路局長) 納品関係の支出の書類、これは公文書でございます。

日付等の記入ということで違う日付を書いたということでございまして、委員の御指摘も当たるかと思っております。

(加納副委員長) やはり認めることはしっかり認めなければだめですよ。先ほど来、質問を聞きながら、各委員が優しいなと私は思っていますよ。質問をさせていただいて、すれ違いの御答弁で終わっているように私は思います。きちっと質問しているにもかかわらず、御答弁が次のステップの再発防止の方向でもって話が終わって、しっかりと行われたことについての確認の御答弁が明確ではない。きのうもそうだったので。

そういった部分で、きょうは副市長もいらっしゃるし、それから3局の最後でもあるし、私は副委員長という立場で、こういった委員会で審査、質疑をさせていただくという立場ですから、市民の皆様方に負託されて、団を代表してここに出席をし、こういった議案の報告についても審議、審査をさせていただく立場ですから、言うべきことは言わなければ市民に対して申しわけないし、こういう年末年始の中で書類、帳簿のチェックで大変な思いをしている方からすれば、私ども議員とすれば、皆さん方の思いもわかるし、お立場もわかるけれども、これは指摘をしなければいけない。それに対して皆さん方は、きちんと答える義務があると思います。

そういった部分で、やはりしっかりと公文書であるということと、結果としてそれは偽りであったということと、

それについての責任はどうするのですかということは明確に答弁しなければだめですよ。その上で、コンプライアンスに反しているのだから、どうするかということだと思っております。いわゆる再発防止策をさっきからおっしゃっているので、それでわかるのだけれども、その辺のことは明確にきちっと答弁していただきたい。

最後に副市長、先ほど来からの御質問、そしてそれについての答弁はわかりましたけれども、ここの常任委員会を所管している副市長という立場もあるし、それから他局も同じようにありますし、横浜市全体のコンプライアンスという観点からしても、これは大変な問題です。したがって、先ほど副市長がおっしゃっていただいた大場副市長との連携の中でという趣旨もありましたけれども、本当に市長を含めて、横浜市の幹部はこのことについて真剣にとらえていただいて、その上でしっかりと再発防止策をさらに徹底していただきたいと思っております。

そういった部分で小松崎副市長、今までの私の質問と川口局長とのやりとりを含めながら、本市全体のコンプライアンスについて、管理職がしっかり把握していないという現実もあった、それからしっかりと答弁できていないという現実もあり、そういったようなことを含めて小松崎副市長から御感想なり、今後の方向性なりをいただければありがたいと思います。

(小松崎副市長) 今回に限らず過去にも繰り返されたことではございました。また、このような事態ということになりましたので、改めて大変申しわけなく思っております。

今後については、職員全員がこのことを深く胸に刻みまして、襟を正して、肝に銘じてしっかりと対応していきたい。そして、また何よりも、これは現場で起きているということではございますので、現場でこれからどういうふうにしていけば、本当の意味で正確を期して市民の方々にいささかもその疑念を抱かれないようなことができるのかという視点で、全庁挙げてこれは取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしく御理解のほどお願い申し上げます。